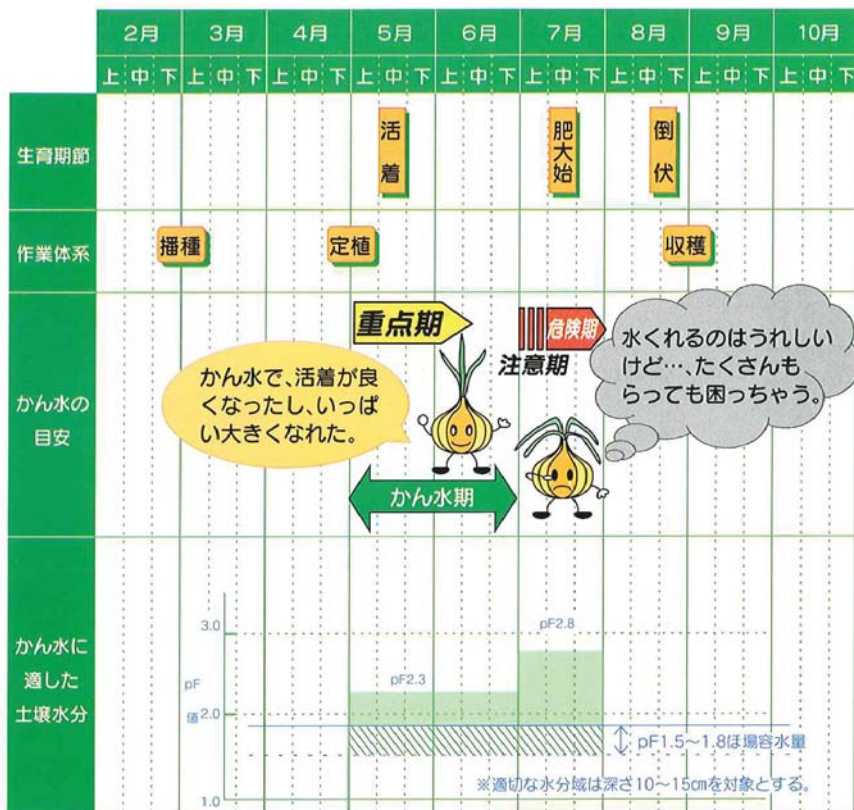


タマネギ



かん水のねらい

- ☆活着と初期生育を促進します。
- ☆養分吸収を促して茎葉の生育量を増進します。
- ☆球肥大期の強度の干ばつによる生育停滞を回避して、球肥大を促進します。

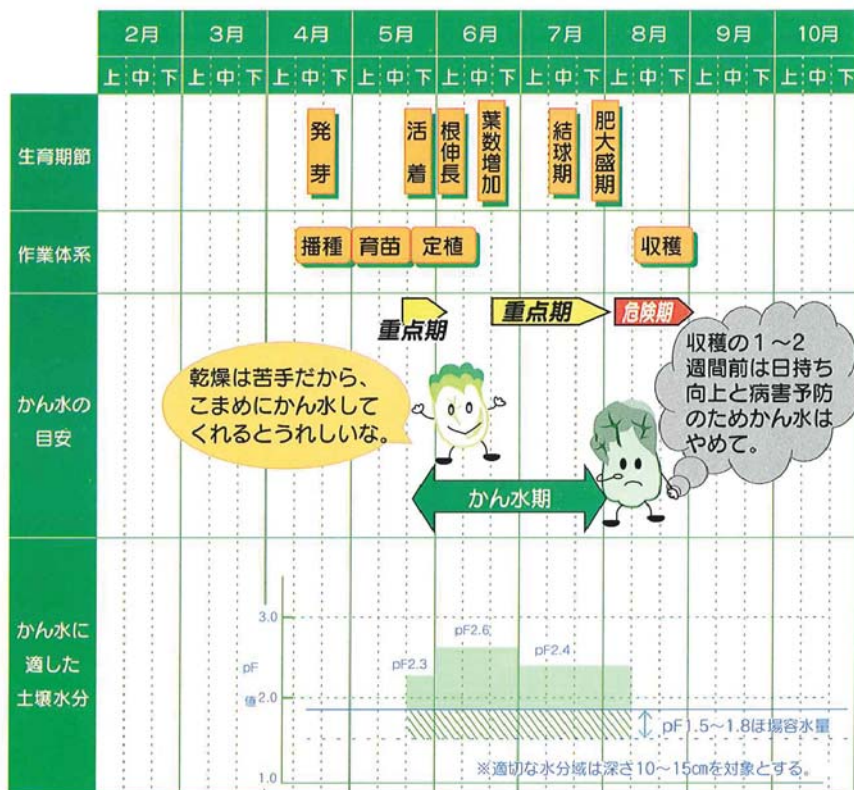
かん水のポイント

- ☆定植期のかん水は少なめにします。

失敗しないためのアドバイス

- ☆球肥大盛期には窒素吸収を抑制させるため、やや乾燥傾向であってもかん水は行いません。

ハクサイ



かん水のねらい

- ☆活着を安定させ、生育を促進します。
- ☆収量を増加させ品質を向上させます。

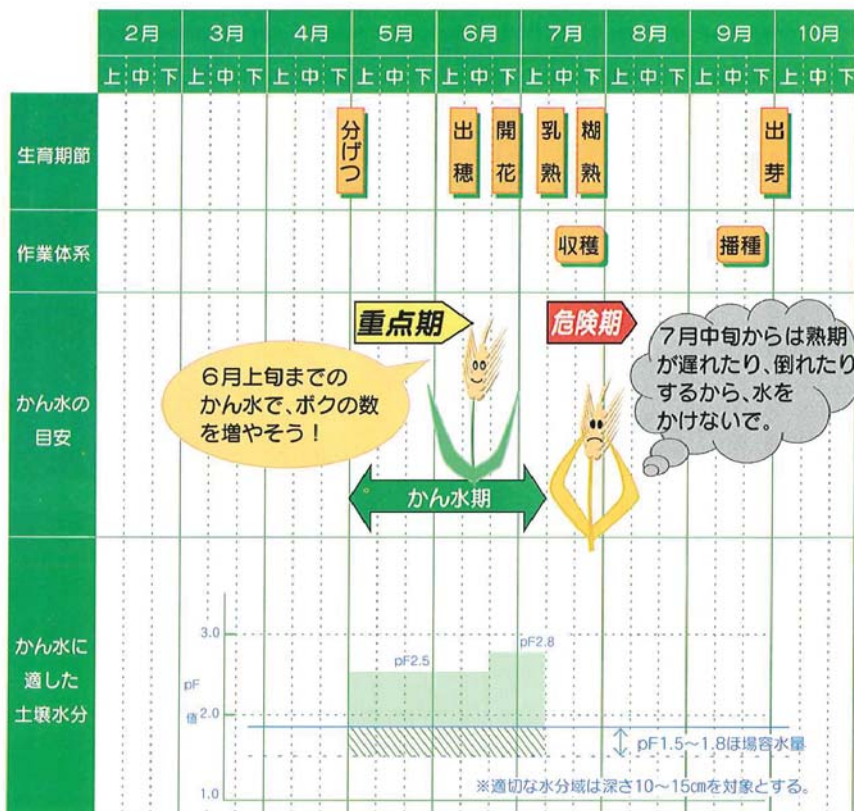
かん水のポイント

- ☆定植時の活着促進にかん水は有効なのでpF2.3を目安にかん水します。セル成型苗はスポットかん水も有効です。
- ☆莖葉伸長期以降のかん水は、生育を促進させるのでpF2.4程度でかん水します。肥大盛期の高温、乾燥は心腐れ症の発生に結びつくのでかん水は品質向上の上で有効です。
- ☆収穫の1~2週間前から、日持ち性向上、病害予防のためかん水は中止します。

失敗しないためのアドバイス

- ☆結球期以降のかん水は、多湿条件で軟腐病の発生を助長しやすいので、量が多ならないように注意します。
- ☆排水不良ほ場では、排水対策を行うようにします。

秋播小麦



かん水のねらい

- ☆養分吸収を促進して有効分けつを増やし、穂数を確保することで収量性を高めます。
- ☆出穂期以降の強度の干ばつによる生育阻害を回避します。

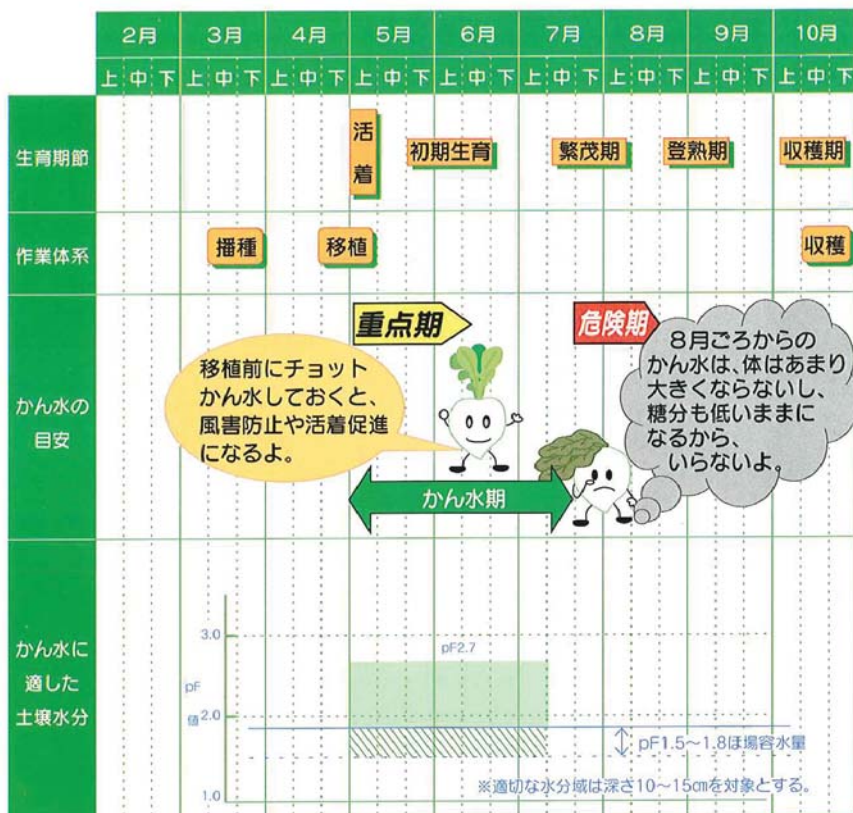
かん水のポイント

- ☆追肥後のかん水は、養分の吸収を促進するためなので、土壌の乾燥状況を必ず確認した上で行います。

失敗しないためのアドバイス

- ☆播種期は土壌乾燥の影響が小さいので、かん水の必要はありません。
- ☆乳熟期以降は熟期の遅延や倒伏の危険性があるので、干ばつ傾向であってもかん水は行いません。

テンサイ



かん水のねらい

- ☆移植時の活着を促進します。(特に保水力の低い土壌)
- ☆地上部の養分吸収と生育促進による乾物生産を拡大します。

かん水のポイント

- ☆移植期には土壌表面が乾燥しているような場合のみ10mm程度かん水して、活着を促進します。この時期のかん水は、風食防止にも効果的です。

失敗しないためのアドバイス

- ☆テンサイは深根性なので、7月中旬以降は10日間程度の干ばつが続いてもかん水は必要ありません。

バレイシヨ (生食用)



	2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育期節								萌 芽			着 蕾	開 花		黄 変				
作業体系									播種			培土						収穫
かん水の 目安										重点期				危険期				
										6月から7月は 大事な時期。 適度な水分で、 元気いっぱい。								8月以降の かん水は、土の中の 空気が少なくなって、 息苦しいよ。
かん水に 適した 土壌水分																		

かん水のねらい

☆地上部の養分吸収と生育促進による乾物生産を拡大します。

かん水のポイント

- ☆培土後は根域が制限され乾きやすくなるので、かん水量を5mm程度上乗せします。
- ☆培土期以降のかん水で莖葉を濡らしたままにしておくと疫病発生の危険性が増しますので、なるべく天気の良い日の午前中に済ませます。またできるだけ雨滴の細かい機器、ノズルを使いかん水強度を弱めます。

失敗しないためのアドバイス

- ☆莖葉黄変始め期以降は、一時的にしても土壌中の空気率を低下させて塊茎の腐敗を招くので、かん水は行いません。
- ☆そうか病発生を抑制するためのかん水は、開始点を pF2.3 としますが、かん水期間は同じです。